

歴代日本銀行総裁小史

第一回

初代総裁 吉原重俊

よしはらしげとし



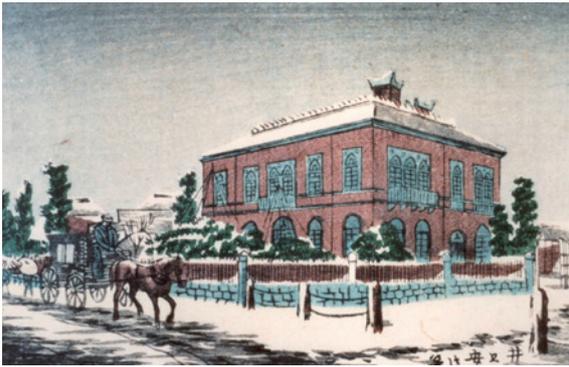
【総裁任期】

明治15年(1882)10月6日～明治20年(1887)12月19日

「日本銀行総裁」と聞いて、どのようなイメージをお持ちでしょうか？この「歴代日本銀行総裁小史」のコーナーでは、歴代総裁の生涯をたどりつつ、総裁在任時に取り組んだことや当時の日本銀行の歴史などをご紹介します。第一回の今回は初代総裁の吉原重俊についてご紹介します。

吉原重俊は、弘化二年（一八四五）に薩摩藩士の子として現在の鹿児島県に生まれました。薩摩藩校「造士館」に学び、一二歳で漢文を読みこなすなど若くして俊才の名をとどろかせたと言われています。慶應二年（一八六六）に藩から選ばれて米英両国に留学し、明治二年（一八六九）には、日本人として初めてイェール大学に入学します。

米留学中の明治五年（一八七二）、岩倉使節団（注1）に随行する三等書記官（書記官とは官吏・国家公務員の官職名の一つ）として現地採用され、その後、外務一等書記官として在米国公使館に勤務します。明治七年（一八七四）に大蔵省（現財務省）に転じ、後に大蔵卿（大蔵大臣）となる松方正義の下で活躍、明治十三年（一八八〇）に大蔵少輔（大蔵次官級）となるなど、官僚としてのキャリアを着実に



日本銀行開業時の店舗が描かれた錦絵。当時の日本銀行は、旧永代橋（現在の日本橋箱崎町）のたもとにあった旧北海道開拓使東京出張所の建物を借り、一部改装して開業しました。この建物は、鹿鳴館を設計した英国人ジョサイア・コンドルが設計し、明治の名建築の一つと言われています。日本銀行が現在の日本橋本石町へ移転した後は迎賓などのために使われていましたが、関東大震災の際に焼失しました。



日本銀行開業の地である日本橋箱崎町に建つ記念碑。当時の店舗（本館）が彫られたプレートが碑面に取り付けられています。碑文には「明治十五年十月十日 日本銀行はこの地で開業した 明治二十九年四月 日本橋本石町の現在地に移転した 創業百周年を記念してこの碑を建てる 昭和五十七年十月 日本銀行総裁 前川春雄」と表記されています。

日本銀行本店本館に飾られている吉原の肖像画



（現在本館では改修工事を実施しているため、肖像画はご覧になれません）

積み上げていきました。大蔵少輔在任中の明治十五年（一八八二）に日本銀行創立委員に任命され、日本銀行開業とともに、三七歳というこれ以降の歴代総裁中最年少の若さで、初代総裁に就任しました。

吉原は、海外留学の期間が長かったことから、当時の役人としては、国際経済に対する造詣が深かったと言われています。総裁としては、当時、政府および全国各地の「国立銀行」が発行していた不換紙幣（注2）の回収を進め、日本銀行が発行する兌換紙幣（注3）を現金通貨の中心とすることを、手形・小切手の流通の推進に尽力しました。そのほか、国庫・国債事務のための体制整備を行い、取り扱いを開始しました。また、現職の日本銀行総裁としては極めて異例ですが、明治十八年（一八八五）に、

中央銀行制度の視察の名目で、一〇カ月ほど欧米諸国を巡っています。しかしながら、病魔に冒され、明治二〇年（一八八七）十二月、現職のまま死去しました。四二歳という若すぎる死でした。吉原は、東京の青山霊園に眠っています。



最初の日本銀行券。日本銀行は紙幣価値が回復した明治18年（1885）に最初の日本銀行券を発行しました。この日本銀行券は、銀貨との兌換が保証された「兌換銀券」でした。大黒の像が描かれ、「大黒札」と呼ばれていました。

（日本銀行金融研究所貨幣博物館所蔵）

※年齢は、満年齢で表記しています。

（注1）岩倉使節団／明治四年（一八七二）十一月から翌々年九月にかけて、江戸後期に諸外国と締結した条約の改正のための予備交渉および西洋文明の調査等を目的とし、欧米諸国に派遣された大使節団。外務卿（外務大臣）岩倉具視を正使とし、政府首脳陣や津田梅子ら留学生を含む総勢一〇七名で構成された。

（注2）不換紙幣／正貨（金貨・銀貨など）と引き換える保証のない紙幣。

（注3）兌換紙幣／同額の正貨（金貨・銀貨など）と引き換えることのできる紙幣。